



二十六聖人

日本二十六聖人殉教者



聖フランシスコ・ブランコ

15、十字架に貼り付けられた時の微笑みは、死後も消えなかったという。スペイン生まれ。28歳のフランシスコ会司祭。

日本二十六聖人殉教者



聖ミカエルのフランシスコ

16、貧しい人や病人の友となった、愛徳の実践者。スペイン生まれ。53歳のフランシスコ会修道士。

巻頭言：新しい年を迎えて

新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする。【マタイ9, 17】

明けましておめでとうございます。希望に満ちた新しい年が、明るく始まりました。今年、信者の皆さんに、神様の恵みが、満ち溢れるほど豊かに注がれますように。信者の皆さんの信仰と希望と愛とが、もっと強められますように。また、信者の皆さんが、いつも聖霊のうちに一つとなって、共に信仰の道を歩むことができますように。

さて、二俣川教会には、多くの外国人信徒がおられます。皆様はご自分の国で、どんな言葉で新年のあいさつを言い交しますか。韓国では、色々なあいさつの言葉がありますが、普通、「새해 복 많이 받으십시오」(セヘボク、マンイバツウシッシオ)という言葉を使います。「新しい年の祝福が、豊かに頂けますように」という意味です。この言葉を「徳談」と言いますが、相手に祝福があるように願う言葉なのです。毎年、旧正月（陰暦の一月一日）になると、家族や親戚みんなが集まって、この言葉で挨拶し合います。

ところで、どうすれば新しい年の祝福を頂けるでしょうか。何もせずただ言葉だけを交わすことでは頂けないでしょう。新しい祝福は、その祝福に相応しく生きることによって頂けます。言い換えれば、新たになって生きてい



かなければ、その祝福は決して頂けないということでしょう。新しい年の祝福を頂くためには、先ず、過ぎ去った年の様々な生き方を顧みることが必要です。そして、その祝福を頂くに相応しくなり、そのように生きることによって頂けるのです。

新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものです。はじめのみ言葉にある、新しいぶどう酒とは、イエス様による新しい契約のことでしょう。また、イエス様によって結ばれる新しい契約の祝福でもあります。わたしたちはみんな、その契約の民ですから、古い生き方や考え方、慣例に捕らわれず、イエス様の新しい生き方を探し、それに沿って生きることが大事です。そうすれば、新しい革袋となって、イエス様の新しい祝福をいつも頂けるでしょう。

改めて申し上げます。明けましておめでとうございます。新しい年の祝福を豊かにいただけますように。その祝福を頂くに相応しく生きていけますように。みんなでその祝福を分かち合う喜びが、満ち溢れる共同体となれますように。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



2024年12月 (12月8日開催)

【検討事項】

1. クリスマス・バザー献金報告

会場でのクリスマス献金 15,696 円、献品古着 128,140 円、アンナ会 63,397 円、左近山 24,550 円、ドリンク 6,100 円、教会学校 5,516 円でした。献金に協力して頂いた皆様、準備・出店スタッフの皆様ありがとうございました。

2. 12/1 クリスマスバザー振り返り

次のような意見がありました。なお、バザー実行委員会でも振り返りを行いました。「軽量テントのためテント張りが楽だった。」「左近山地区の人達(うどん屋台出店)の活発さにパワーを感じた。」「バザー準備は力仕事もあり、若年層の参加を促す環境作りが必要。」

「ワンデーポートの野菜販売が予想より早く売り切れた。」「テーブル運びが大変なので運びかたに工夫が必要。」

3. 一粒会会費の集め方変更

集め方の変更を検討中です。3~4月ごろから特定の地区を決めて新しい集め方を試行し、改善したうえで実施する予定です。

4. 主日10時ミサ時の駐車許可証発行

2024年は10台分を目途に発行していました。2025年からは発行枠を20台に拡大していく予定です。

5. ナン助祭の能登地震被災地訪問報告

1/5(日)の10時ミサで、ナン助祭が能登地震の被災地を11月下旬に訪問した際の報告を行う予定です。

【フリーディスカッション】

「委員会・信徒会で活動していて感じる悩み」をテーマにディスカッションしました。意見を整理してさらに討議を深める予定です。

「新しい人が来ない。」「学年が上がるほど教会に来る子供が減る。」「キリスト教講座のヘルパーが高齢化している。」「教会から60代男性がすっぽり抜けている。教会に来て活動に参加する切っ掛けを作りたい。」「大切にされていると実感する場がない、人が集まらない、活発な活動ができない、という悪循環になっている。」

【各会報告】

1. 典礼委員会

2025/1/1(水)神の母聖マリア(祭)10時
1/5(日)水の祝別 10時ミサの中で行います。
1/6(月)聖家族の像の片付け
1/9(木)ベネディクション(聖体賛美式)

2. 教会学校

- ・11/17 七五三のお祝い
11名申込、当日参加7名でした。欠席の子ども4名には後日お祝い品を渡しました。
- ・12/1 クリスマスバザー子供企画
聖堂クリスマスツリーを飾るティーライト、クリスマス聖劇で奉納するランプのカップを作りました。
- ・1/19 から教会学校、初聖体クラスを開始します。
- ・初聖体クラス募集

2025年に小学校2年生となるか、それ以上の年齢で初聖体を受けていない子供が対象です。まだ洗礼を受けていない子供たちも、初聖体クラスと一緒に勉強して受洗と初聖体が受けられます。ぜひ、お知り合いにもお知らせください。

3. キリスト教講座

12/14から入門講座を再開します。

4. 広報委員会

1月号は2025年の二俣川教会献堂60周年を記念した企画を行います。

5. 福祉委員会

年末福祉献金の寄付先団体と寄付金額を検討し、昨年同様とすることにします。

6. 建物管理委員会

清掃業者に発注する清掃の回数等を検討中です。

7. 共同墓地委員会

- ・11/4(月)上大岡共同墓地度追悼ミサ、納骨式(姜神父様、内藤神父様、出席:約130名)
- ・上大岡共同墓地受付 生前予約3名、改葬2名
- ・2025年3月に上大岡共同墓地の増設について詳細計画を決定する予定です。

8. ヨゼフ会

- ・11/10、24 コーヒー光を実施しました。
- ・12/1 クリスマス・バザーでコーヒーを提供しました。
- ・12/29(日)10時ミサ後に二階集会室で忘年会を予定しています。

9. マリア会

- ・報告
マリア会 10/27のバザーでキーマカレーを提供しました。
パーティー係 12/7会議・新成人のお祝いメニューを試作しました。
アンナ会 11/11、11/25活動、12/1クリスマスバザーに手芸品を出店しました。

ステラマリス帽子を編む会 11/15帽子のラッピング、11/28活動
ボリビア支援グループ 11/24「のんびり日曜日」、12/7に12/8「のんびり日曜日」の準備

・予定

マリア会 12/16 第7回マリア会運営委員会
アンナ会 12/9 反省会
ステラマリス帽子を編む会 12/20 活動
ボリビア支援グループ 12/8「のんびり日曜日」、12/13 会議

10. 青年会

- ・クリスマス企画 青年会とインターファミリー有志主催で、12/22の10時ミサ後に「みんなで祝おうクリスマス」の集いを予定しています。
- ・二十歳のお祝い 1/19の10時ミサ内で、今年度に二十歳を迎える世代のお祝いを行います。名簿上15人の対象者がいるので、久しく来られていない青年にも連絡します。

11. インターファミリー

- ・11/10 アルペなんみんセンターに居住されている方々に向けてグリーティングカード13通を作成し、11/24に同センター事務局に届けました。
- ・青年会と一緒に「みんなで祝おうクリスマス」の集いをを行います。

12. 一粒会

- ・11/23 ザビエル祭のバス参加収支報告をしました。利用者41名、二俣川の利用32名(内子ども1名)でした。
- ・12/15から1月末まで一粒会員募集強化期間。ザビエル祭の写真と会費封筒をロビーに掲示します。

以上



皆で祈りましょう

2025年1月26日は「世界こども助け合いの日」（1月最終日曜日）です。
教皇フランシスコは長引く戦いの中で、青い空を見上げることを知らない子どもたちに心を痛められ、昨年2024年3月にこの祈りをメッセージの中で発表されました。

「皆のために祈りましょう。わたしたちが前に進めるようにと。ご両親や、お祖父様、お祖母様のために祈ってください。病気の子どものために祈ってください。平和のために、戦争がないようにと祈ってください。」

（『教皇、バチカンで「世界こどもの日」のミサ』VATICAN NEWS HPより）

至聖なるマリア様と聖ヨセフ様とともに、このように祈りましょう。

聖霊、来てください。
あなたのすばらしさが
世界のこどもたちの顔に映し出され
わたしたちに示されますように。
イエスよ、来てください。
あなたはすべてを新たに
わたしたちを御父へと導くためです。
来て、わたしたちとともにいてください。
アーメン。

2024年3月2日 フランシスコ

（『第1回「世界こどもの日」教皇メッセージ』カトリック中央協議会 HPより）

2025年「世界こども助け合いの日」にあたって

教皇庁児童宣教事業日本代表 門間直輝神父様のメッセージより

今年の国内テーマは「ひかりのこどもとしてあゆみなさい」（エフェソ5・8参照）です。ポスターの絵は、カトリック信徒で元星美学園小学校教員の土屋愛さんが協力してくださいました。教皇庁児童宣教事業のモットーである「こどもたちがこどもたちを助ける」（Children help children）姿が描かれています。子どもたちはこの



世界の希望であり「ひかり」です。イエスさまは「こどもたちをわたしのところに来させなさい。… 神の国はこのような者たちのものである」（マルコ10・14）と仰いました。イエスさまが教えてくださったとおり、子どもたちが本来もっている創造性や豊かな心がいつもわたしたちの世界で光り輝くことを願っています。

第3回 二俣川教会献堂 60 周年記念企画

『意外と知らないコト』～二俣川教会の聖堂の様々なものを作った人～

1965年（昭和40年）3月1日に初代聖堂の献堂式が行われ、その30年後の1995年（平成7年）5月3日に現在の聖堂の献堂式が行われました。2025年は初代聖堂の献堂60周年となる、節目の年です。今回は、現聖堂を建設するにあたり、普段私たちが使っている聖堂内の椅子や、奉納台、典礼聖歌集などを納める棚を造る担当をされた、小林製作所のペトロ K. S.さんと内陣（祭壇のあるエリア）のデザインなどを手掛けられた、セバスチャン A. T.さんにお話をうかがいました。

Kさんは昭和10年生まれ、静岡県藤枝市在住89歳です。現在は息子さんが跡を継ぎ、Kさんは製作所の会長を務めておられますが、「死ぬまで職人」と口にされ、いまだに工場が好き、現場が好きで工場に足を運んでおられるとのこと。同じ第三地区の静岡県の藤枝教会に所属する古くからの信者さんで、二俣川教会出身のクレメンス芹沢博仁神父様は、甥にあたるようで、二俣川教会とは深い縁を感じておられるそうです。

さて、聖堂内の椅子などが造られるまでにはどんな過程があったのか、お聞きしましたところ、まずは、基調とする建物全体の雰囲気をつんでから製作にかかり、1枚の木の板作りから製品を作り出すそうです。製作から運搬、設置をして最終的には神父様のご意見や勧めなどをふまえ、微調整して完成。信者だからこそ、カトリック教会での使用状況が肌感覚でわかる、とおっしゃっていました。二俣川教会聖堂内椅子などを契機に、他教会（藤沢教会、末吉町教会、藤ヶ岡教会など）、修道院、学校（栄光学園など）などにも小林製作所は製品を造るようになりました。カトリック教会だけでなく他宗派（ルーテル栄光教会など）や全国（東京や伊万里など）にも製品を納めています。

「使ってくれる方が喜んでくれるのが一番嬉しい」と穏やかな笑顔で語ってくださったKさん。「見れば、うちの仕事だとわかる丁寧さ」を大切に造ってくださったモノ、例えば全ての椅子の角は丸みを持たせてあったり、荷物掛けのフックの位置はちょうど良い位置にあってりと気遣いを感じられます。ひとりで祈る時、みんなで祈る時、なにげなく座る椅子造りにも、同じ信仰を持つ職人さんの想いがあったことをご紹介します。



ペトロ K. S. さん

～Kさんが手がけた祭壇や椅子をご紹介します～



伊東教会の祭壇と椅子



大宮教会の椅子など



日本カトリック神学院の祭壇と椅子

祭壇のある内陣はミサ聖祭をすべての基とする教会共同体にとって大切な場所です。現聖堂の全体、特に内陣のデザインを手がけ、中心となって製作されたAさんにもお話をうかがいました。Aさんが携わられたのは、祭壇や説教台、磔刑の十字架、洗礼盤、書見台、聖櫃と聖体ランプ、聖母子像が置かれている棚などです。Aさんは、末吉町教会・新子安教会・平塚教会など多くの教会や教会関連施設でもたくさんのものを作られています。

現聖堂には祭壇の後ろ、会衆の真正面には「復活のキリスト像」が掛けられています。多くの教会に掛けられている磔刑のキリスト像でなく、こちらを提案されたのは、いつでも誰をも迎え入れたい、という想いからだそうです。

また、Aさんは、以前から主日ごミサ前に自主的に玄関ロビー脇に立って、聖堂に入る方を迎え入れています。Aさんは言います。だれもがミサの最後に派遣の祝福を受けてそれを意識し、それぞれの職場や家庭に派遣されて、また主日に教会に「ただいま！」と帰ってくる。だから、ドアボーイ(ドアジィ)は「おかえりなさい！」という気持ちで迎え入れるし、そこに初めていらっしゃる方がいれば、自分は特に温かく迎え入れたいと思っています、と。

現聖堂づくりに関わった方をご紹介しました。見慣れているご復活のキリスト像や、いつも使っている、年月を経て木のぬくもりが増した椅子や棚ですが、備えられたものには関わった方たちの想いがあること、その想いの一端を知りました。いつでも、どんな方でも温かく迎え入れる聖堂と共同体でありますように。



説教台



洗礼盤



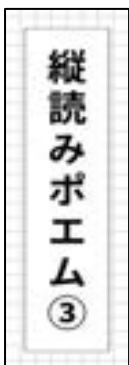
磔刑の十字架 聖櫃と聖体ランプ



書見台

60周年企画は全4回のシリーズ企画です。次回第4回では、『さあ、未来へ！～今を生きる教会～』と題して60周年を迎える二俣川教会の歩みを振り返りつつ、これからも今を生きる教会として、未来へどのように踏み出すか、と一緒に考えるきっかけを投げかけたいと思います。

広報委員会



皆さまからご寄稿いただいた縦読みポエム、シリーズ第3弾です。ポエムの最初の言葉を縦に読んでみてください。

生活の中で
生きている
靈魂の
行く道をさとす

みことばを
心に留めて
問いかける
場所は教会

清流のごとく清らかな
命の泉から尽きることなく
靈なる息吹が私に注がれ
祈る朝晩 家族とともに



参加者の声

11月23日、日本カトリック神学院で行われたザビエル祭に参加された方の中から数名の方に感想をお寄せいただきました。

知人が誘いをかけたきっかけで、今回は初めてザビエル祭に参加することができました。実は、日本語がまだ上手じゃないベトナム人なのですが、ザビエル祭に参加したおかげで、そして「すべての人を1つにしてください」というテーマのお話に耳を向けて、生活の中で単純な事例として、様々な場面から色々な気がつかなかったことや気にならなかったことなど、豊かな精神生活を喚起してくれました。本当にザビエル祭から良い勉強になっております。感謝の気持ちでいっぱいです。

N. H.

今回は私にとって数年ぶりのザビエル祭でした。コロナ前集まるのが当たり前だった私たちにとって、今は集まるということ自体の価値をより感じるようになりました。今回、コロナ禍以降初の対面でのザビエル祭開催ということで本当に多くの人が集まっていました。様々な教区からの信徒の皆さん、そして大司教様は長崎からいらしてくださいました。また久しぶりの再会や新たな出会いなど蜘蛛の巣状にどんどん広がるつながりに温かみと、これがひとつになるということなんだと感じました。

セシリア・マリア T. A.

日本カトリック神学院は広い敷地に立派な建物があり、想像以上でした。ミサは、中村倫明大司教様により行われ、聖堂・ロビー・食堂・中庭と大勢の信者があふれる、明るく、力強いミサとなりました。聖堂から澄んだ歌声が聞こえています。「イエスのカリタス修道会コンサート」が行われていたのです。中庭から見回すとナン助祭様が端の方で嬉しそうに立っていらっしゃいました。講演会の時も立派にお仕事をされて、とても頼もしく、帰国されたらきっと皆に好かれる神父様になれるのではないかと思います。

「学年で私一人だけなんです・・・」心細そうに話している学生がいました。「大丈夫ですよ」と声をかけ、集合場所に向かいました。夕暮れのバスの中で、最後に会った学生の、声をかけたときにハッとされ、そのあと安心されていた顔が浮かんできました。きっと気づいてくれるでしょう。「大丈夫ですよ。一人じゃないから。」

フランシスカ I. C.

～一粒会からのお知らせとお願い～

一粒会は神学生の養成を援助するための活動です。神学生の歩みは、皆様の祈りと献金によって生まれ支えられています。2024年12月15日から2025年1月末までを、一粒会会員募集強化期間として呼びかけています。日本の教会の未来のために、ぜひ大きな関心を持ってご協力をお願い致します。ザビエル祭の写真と共に、会費封筒はロビーにございます。

【1月・2月の予定】

- ・1月12日 侍者会
- ・1月19日 教会学校3学期始業・初聖体クラス開始
- ・2月2日 クラス
- ・2月9日 侍者会
- ・2月16日 クラス

【お知らせ】

・1月19日より初聖体クラスが始まります。小学校2年生以上のお子さんで、まだ初聖体を受けていない子どもたちが6月22日の初聖体に向けて勉強をします。初聖体をご希望のご家族がいらっしゃる方は、事務所か教会学校リーダーまでお申し込みください。

●クリスマスバザー（12月1日）

教会学校のコーナーでは、ミニランタンづくりとニコちゃんライトづくりを行いました。

ミニランタンは、聖劇の中で子どもたちが奉納し、ニコちゃんライトといっしょにクリスマスツリーに飾りました。子どもたちがそれぞれの芸術センスを活かして作ったライトは、クリスマスツリーを彩る光となりました。



●ゆるしの秘跡（12月8日）

小学生以上の子供たちは、12月1日の教会学校の時間に、ゆるしの秘跡を受けるための準備を行い、8日のミサ後にひとりひとり、ゆるしの秘跡を受けました。

●聖劇（12月22日）

子どもたちのセリフをあらかじめ録音したスライド「イエスさまのおたんじょう」に合わせて、天使や羊飼いや、羊、博士になった子どもたちが教会のみなさんへイエスさまがお生まれになった喜びを伝えました。



アンナ会の
みなさんから
子どもたちへ
プレゼント♡
ありがとうございます
ございます♡

ホッとトピックス

クリスマスあれこれ

待降節、二俣川教会で行われた様々な準備や企画等をまとめてみました！

- ★11.30 待降節黙想会 講師は、イエズス孝女会のシスター小野恭世。
テーマは『キリスト者のための対話法』でした。



★馬小屋に説明文

通りから見える馬小屋に興味を持ってくださり、ご覧になる方のために、今年は手にとって読んでいただける馬小屋の聖像説明プリントを作成しました。

★子どもたちのアドベントカード

子どもたちにより意義深い待降節を過ごして欲しいという神父様のご意向で、アドベントカードを実施しました。待降節の間、主日のミサに来ると神父様から「炎」のシールを貼っていただきました。祭壇の前の4本の蠟燭と同じように、手元のカードの4本の蠟燭が灯った子どもたちはワクワクした様子で、神父様から素敵なプレゼントをいただきました。



★12.1 クリスマスバザー

10月のふれあいバザーと同じく「行って、あなたも同じようにしなさい。ルカ 10.37」をテーマに行われたクリスマスバザー。久しぶりとなる献品と古着のわかちあいコーナーも行われました。寄付をする時にご自分で値付けをする新しいシステムで、良品が集まりました。反省点を今後活かして、みんなで“教会のバザー”を追求していけたら良いなと感じました。左近山地区による温かいおうどん販売、師イエズス会の販売(コロナ禍後はじめて)、クリスマスグッズをメインにしたアンナ会の手芸品販売、外部団体の販売も行われ、子どもたちもクリスマスに向けたランタン作りに励みました。締めくくりは恒例となった“結びの集い”。飾られたツリーの一番上に星が設置されて完成！ツリーを囲んで待降節の聖歌を歌い、お祈りで締めくくられました。



★「祈りのサマリア人になろう」企画

「行って、あなたも同じようにしなさい。ルカ 10.37」というイエス様の言葉に「はい、私も行って、同じようにします！」と答えたら…まずは何ができるだろう？そんな風に考えてみた、今年のバザーテーマのアンサー企画とも言えるもので、クリスマスバザーからスタートしました。4枚ずつ配られたデナリオンに自分の名前を書き、これまでに話したことのない人に声をかけて出会い、デナリオンを交換しましょう。そして、その人のために待降節の間、お祈りしましょう。という企画でした。全く新しい試みでしたが、100名ほどの方が参加してくださり、隣人の輪を広げ、相手の望みや困りごとのなどの“意向”のためではなく“ただその人のために祈る”という形の祈りの輪が、少しずつ広がったように感じました。



★12.15 聖歌隊クリスマスコンサート

10時ミサが終わり、ライトダウンして始まったクリスマスコンサート、神父様がギターや歌を披露してくださり、聖歌隊の皆さんの練習を重ねた歌声にクリスマスを待ち望む気持ちが高められました。みんなで歌いましょう♪では楽しく歌いました。



★12.17 横浜療育医療センターのクリスマス会

今年から、二俣川教会への訪問を再開して下さった横浜療育医療センターへクリスマス会の為に訪問しました。この日の為のクリスマスカード作りやプレゼント作りこれまで以上にたくさんの方々が関わり、再会と新しい出会いの時となりました。

★12.22 教会学校の聖劇&ツリーのこと

10時ミサの中で、聖劇が行われました。写真は9ページの"きょうかいがっこうだより"を。聖劇の最後には、みんなで作ったミニランタンを赤ちゃんのイエス様に捧げる行列。捧げられたミニランタンは、クリスマスのミサではツリーに飾られ、特別な優しい光を放ち、集った私たちの心を照らしてくれました。

★12.22 みんなで祝おうクリスマス

10時のミサ後すぐ、鈴の音と共に始まったひととき。クリスマスの本当の意味を知らないトナカイたちと自称案内人との寸劇、突然のクイズ、皆さんの投票で決ったクリスマス聖歌を歌うコーナーなど。誰もがみんな参加者になる会をやりたい！という青年たちの気持ちが溢れる時間となりました。インターファミリーの皆さんを巻き込んだ軽快なクリスマスソングで、楽しく締めくくられました♪



★ロビーに大きな「馬小屋」の絵の展示

ブラジル人青年のJさんが描いてくれた馬小屋の聖家族を、大きなボードにしました。横に立って写真を撮ったら、ほらまるで今、私たちが赤ちゃんのイエス様を拝みに来ているようではありませんか？そんなフォトスポットです。



聖年のロゴマーク

- 「2025年の通常聖年」について。2024年12月24日にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕し、2026年1月6日の主の公現の祭日に同扉が閉じられ閉幕する通常聖年。この聖年を公布した^{たいちよくしよ}大勅書「希望は欺かない」。2025年はこの『二十六聖人』で聖年について特集し、皆さんと共に歩んでまいりたいと思います。
- 12月31日(火)から1月3日(金)まで、事務所はお休みです。また、1月2日(木)から9日(木)の週日ミサはありません。ミサ中、事務所は閉まりますのでご注意ください。
- 2025年1月19日(日)に青年のミサ(新成人のお祝い)、ミサ後には教会新年会が行われます。皆さんお祝いの気持ちを持ってごミサを捧げ、ミサの後には新年会に参加し、共同体の皆さんともっと知り合って、新年を一緒に歩む気持ちで進んで参りましょう。



マリア会通信 No. 146

主のご降誕おめでとうございます。今年もマリア会活動にご理解、ご協力いただきまして、ありがとうございました。

2025年1月26日(日)10時ミサ後に、マリア会総会を予定しておりますので、ご出席くださいますようお願いいたします。

年末年始はご多用のことと思いますが、くれぐれもご自愛ください。

マリア会 H. I.

— お詫びと訂正 —

2024年12月号9ページ本文2行目の聖書箇所を表記を間違えていました。ルカ37.10とありますが、正しくはルカ10.37です。確認がならず、そのままに掲載してしまいましたことをお詫びいたします。

広報委員会

「編集後記」

2024年は元日に起こった能登大地震からスタートすることになり、多くの皆さまが大変な悲しみとご苦労と心配に明け暮れる日々を過ごされたと思います。日本だけでなく世界の各地でも大雨による大洪水などが何度もありました。これは安心できる生活と平和を求めている人々がたくさんおられるということでしょう。主のご降誕は私たちに大きな喜びを与えてくれましたが、神様がくださる本当の平和が世界中の方々の元へ届きますようにと心からお祈りいたします。2025年もどうぞよろしく願いいたします。

(N. F. 記)